

【報道関係各位】

株式会社ベネッセコーポレーション  
代表取締役社長 福島保

## 高校受験調査

～高校1年生は自らの高校受験をどのように振り返っているのか～

**高校受験を通じて「やればできると自信がついた」71%**  
**一方で、「もっと勉強しておけばよかった」65%**

株式会社ベネッセコーポレーション(本社:岡山市)の社内シンクタンク「ベネッセ教育研究開発センター」では、2011年9月に、全国の高校1年生とその母親3,085組を対象に、「高校受験」について振り返っていただき、インターネット調査を実施しました。調査テーマは、①志望校選びや受験勉強の実態、②中学生にとっての高校受験の意味や効果、の2点です。

主な調査結果は以下の通りとなります。

- ① 中3の夏休み頃までに、6割以上が受験勉強を開始している。また、週あたりの学校外学習時間は、中3の9月頃で19時間、高校入試直前で26時間となっている。
- ② 中学時代に苦手だった教科は「数学」28.9%、「英語」27.2%が多く、苦手と感じ始めたのは、数学は3割以上が入学前からで、英語は約半数が中1初め頃から夏休み後くらいまでとなっている。
- ③ 約3割が、受験勉強をするなかで、勉強の仕方の工夫や、目標の掲示、生活リズムなど、うまくのりきったコツがあったと回答している。
- ④ 中学時代に志望校選びで重視したことは、「自分の学力にあっている」94.9%、次いで、「通学に便利な場所にある」70.9%となっている。志望校選びの情報源として参考にしたのは、「保護者の話」84.8%、次いで、「高校の見学会や説明会」78.5%となっている。
- ⑤ 高校受験を振り返って、よかったこととして、「進路についてよく考えることができた」71.4%、「やればできると自信がついた」70.5%としている。一方で、高校受験の反省点としては、「もっと勉強しておけばよかった」と64.5%が回答している。
- ⑥ 現在の高校生活については、「学校は楽しい」87.7%、「日常生活全般が充実している」81.7%と前向きな生活を送る一方、「上手な勉強のしかたがわからない」63.4%、「勉強しようという気持ちがわからない」46.2%など、勉強面での課題が見られる。

調査結果では、高1生の7割が「進路についてよく考えることができた」「やればできると自信がついた」と受験を振り返っており、「高校受験」は子どもたちにとって大きな成長の機会であることが伺えます。

しかしながら、同時に6割が「もっと勉強しておけばよかった」と考えており、現在の高校生活については、5～6割が、勉強方法がわからず、意欲がわからないなど、勉強面での課題が見られます。「受験勉強で自分なりの工夫やうまくのりきったコツがあった」と回答している高1生が3割程度おり、このように、勉強法を工夫する行動様式や、自分なりの勉強法が身につくと、高校や大学、社会に出てからの学びにも自分なりに工夫し対応ができるのではないかと考えられます。

受験校選びの情報源としても影響力が強い保護者をはじめ、教員など周囲の大人としては、受験を通じての子どもの頑張りを認めてあげると同時に、高校入学以降の学習、進路の検討につながるアドバイスが求められるところです。

●調査概要

名称	高校受験調査
調査対象	高校1年生とその母親 *インターネット調査会社の約191万人のモニター母集団のうち、子どもを持つ母親(35歳～59歳)10万名に対して予備調査を実施。このうち、高校受験(中高一貫校の内部進学は除く)を経験した高1生の子どものいる母親にアンケートの協力を依頼。母子3,085組のサンプルが集まった時点で調査を終了した。
調査地域	全国
有効回答数	3,085組 (高校1年生3,085人、その母親3,085人)
調査時期	2011年9月
調査方法	インターネット調査
調査項目	子ども票・・・受験校選び、受験勉強、現在の高校生活 母親票・・・受験校選びで重視したこと、進路選択・受験勉強に関わる母親の役割、など
回答者の属性	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども</li> <li>・性別 男性:48.9% 女性:51.1%</li> <li>・校内成績 上位:19.9% 中上位:40.2% 中位:17.4% 中下位～下位:21.9% 覚えていない:0.7%</li> <li>●母親</li> <li>・年齢 35～39歳:10.6% 40～44歳:42.2% 45～49歳:38.1% 50歳以上:9.1%</li> </ul>

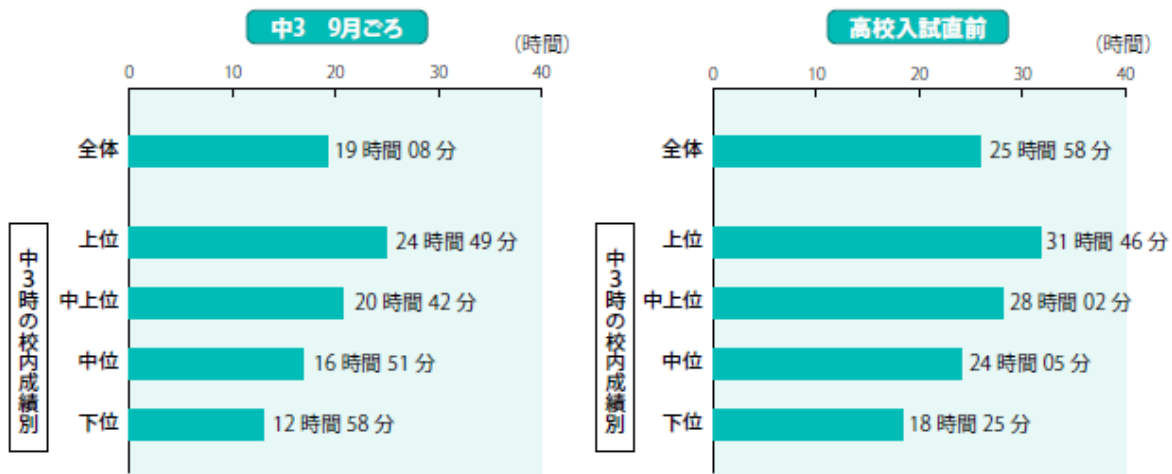
① 中3の夏休み頃までに、6割以上が受験勉強を開始している。また、週あたりの学校外学習時間は、中3の9月頃で19時間、高校入試直前で26時間となっている。

表1) 受験に関する時期

	高校受験を意識し始めた時期	高校受験にむけた勉強を始めた時期	今通っている高校が受験校の候補としてあがった時期	今通っている高校を受験することを決めた時期
入学前～中1の間	10.2	3.9	11.5	5.7
中2前半～夏休み後ぐらい	13.2	6.9	7.9	3.6
中2の後半	12.1	7.2	4.7	2.6
中3の初め頃	25.9 累積61.4%	21.0	15.4	11.3
中3の夏休み頃	16.3	25.0 累積64.0%	15.7	12.3
中3の夏休み後ぐらい	9.0	14.1	16.2 累積71.4%	16.1
中3の後半	7.1	12.3	18.1	30.3 累積81.9%
入試直前になって	1.6	3.9	7.1	15.7
とくに意識しなかった	4.4	5.7	3.5	2.4

注)「入学前～中1の間」は「中学校に入学する前」+「中1の初め頃」+「中1の夏休み頃」+「中1の夏休み後ぐらい」+「中1の後半」の%。「中2前半～夏休み後ぐらい」は「中2の初め頃」+「中2の夏休み頃」+「中2の夏休み後ぐらい」の%。

図 1) 週あたりの勉強時間



注 1) 週あたりの勉強時間は、学校や塾の授業を除いた勉強時間と、塾での勉強時間を合計して、平均値を算出したものである。  
 注 2) 学校や塾の授業を除いた勉強時間は、中 3 の 9 月ごろと高校入試直前の 2 時点で尋ねている。「ほとんどしない」を 0 分、「30 分くらい」を 30 分のように置き換えたのちに、平日の勉強時間を 5 倍、休日の勉強時間を 2 倍し、これらを合計して 1 週間の時間を算出した。  
 注 3) 塾での授業時間は、中 3 の 9 月以降の通塾状況(冬期講習を除く)をもとに算出している。通塾していない人を 0 分とし、通塾している人については週あたりの日数と 1 回あたりの時間を乗じて 1 週間の時間を算出した。

② 中学時代に苦手だった教科は「数学」28.9%、「英語」27.2%が多く、苦手と感じ始めたのは、数学は 3 割以上が入学前からで、英語は約半数が中 1 初め頃から夏休み後くらいまでとなっている。

図 2) 得意教科／苦手教科

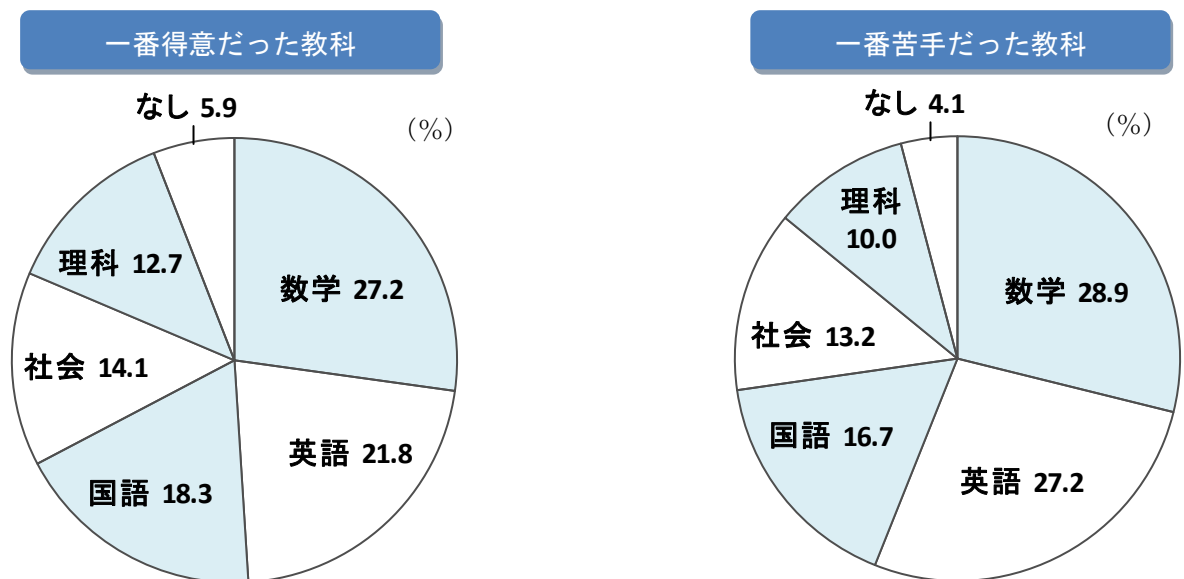
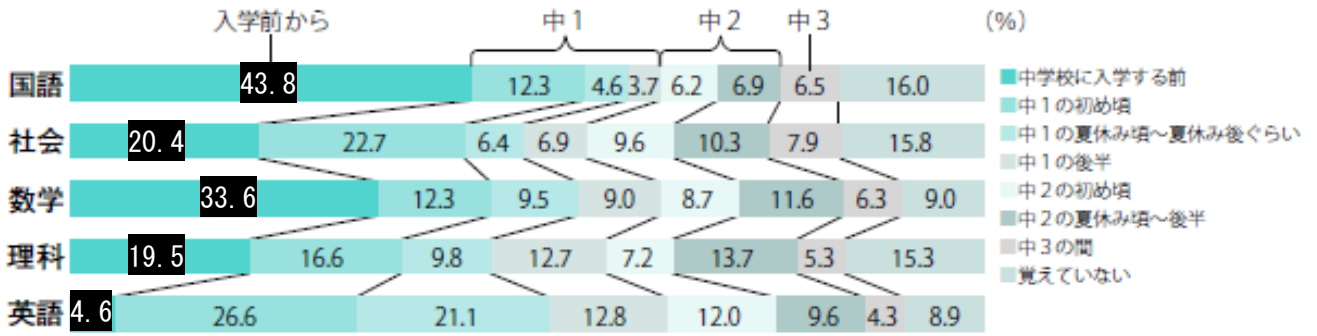


図3) 苦手教科を苦手と感じ始めた時期

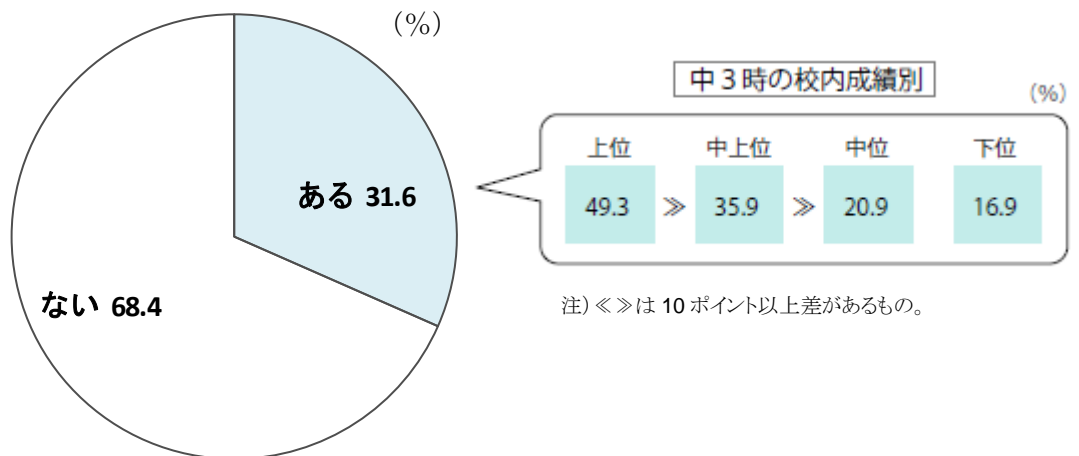


注1) 「一番苦手だった教科」の質問で、国語・社会・数学・理科・英語のいずれかを選択した人のみに尋ねている。

注2) 「中2の夏休み頃～後半」は「中2の夏休み頃」+「中2の夏休み後ぐらい」+「中2の後半」の%。「中3の間」は「中3の初め頃」～「入試直前になって」までの%の合計。

③ 約3割が、受験勉強をするなかで、勉強の仕方の工夫や、目標の掲示、生活リズムなど、うまくのりきったコツがあったと回答している。

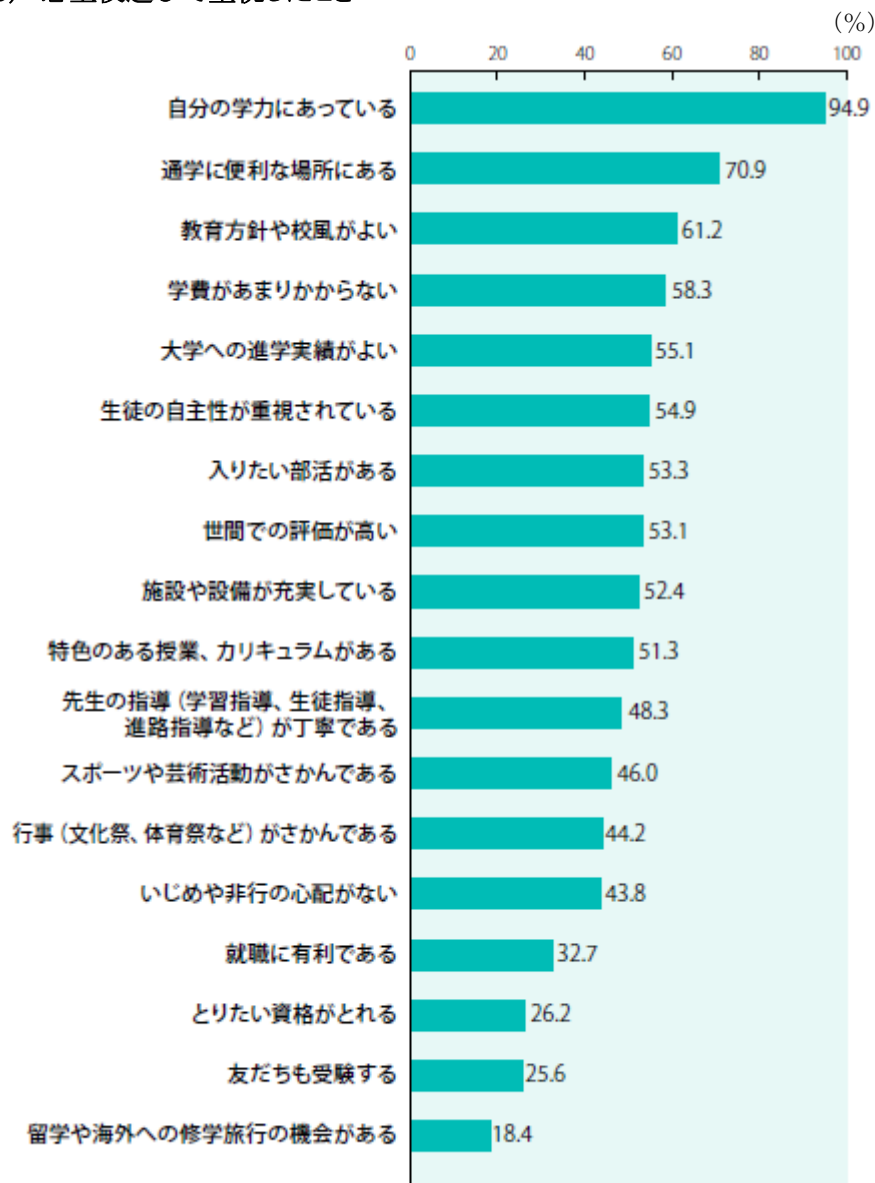
図4) 自分なりの工夫の有無



注) <>>は10ポイント以上差があるもの。

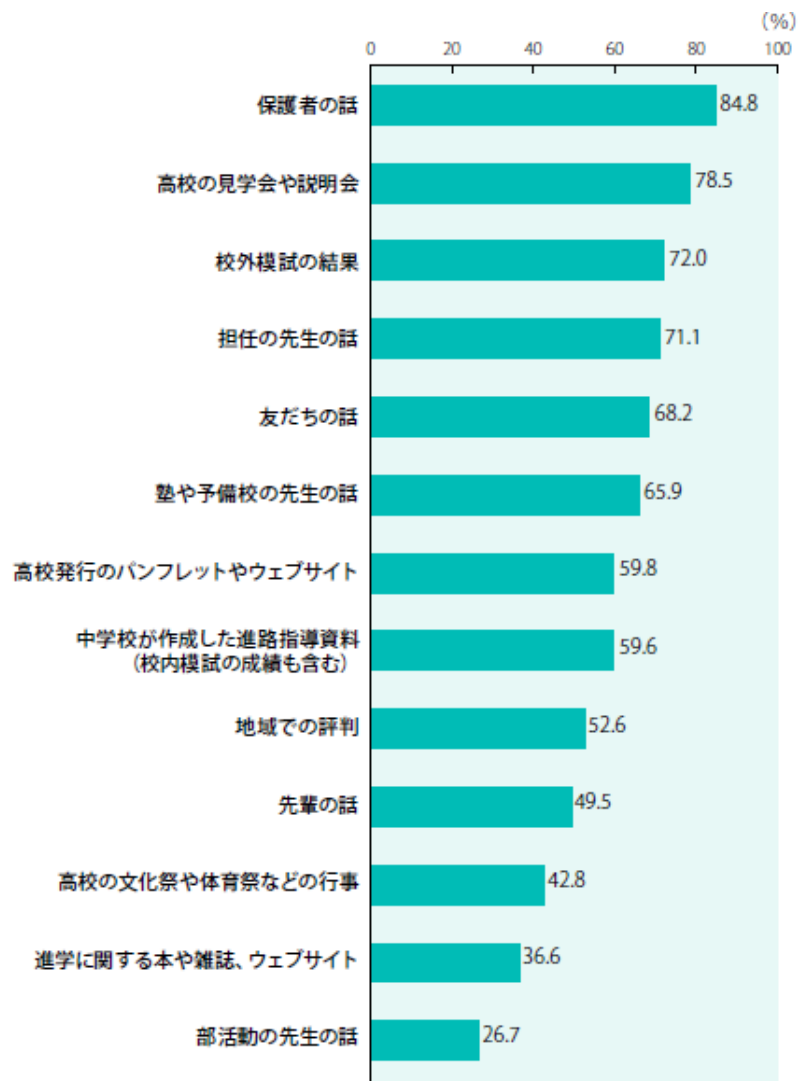
④ 中学時代に志望校選びで重視したことは、「自分の学力にあっている」94.9%、次いで、「通学に便利な場所にある」70.9%となっている。志望校選びの情報源として参考にしたのは、「保護者の話」84.8%、次いで、「高校の見学会や説明会」78.5%となっている。

図5) 志望校選びで重視したこと



注)「とても重視した」+「まあ重視した」の%。

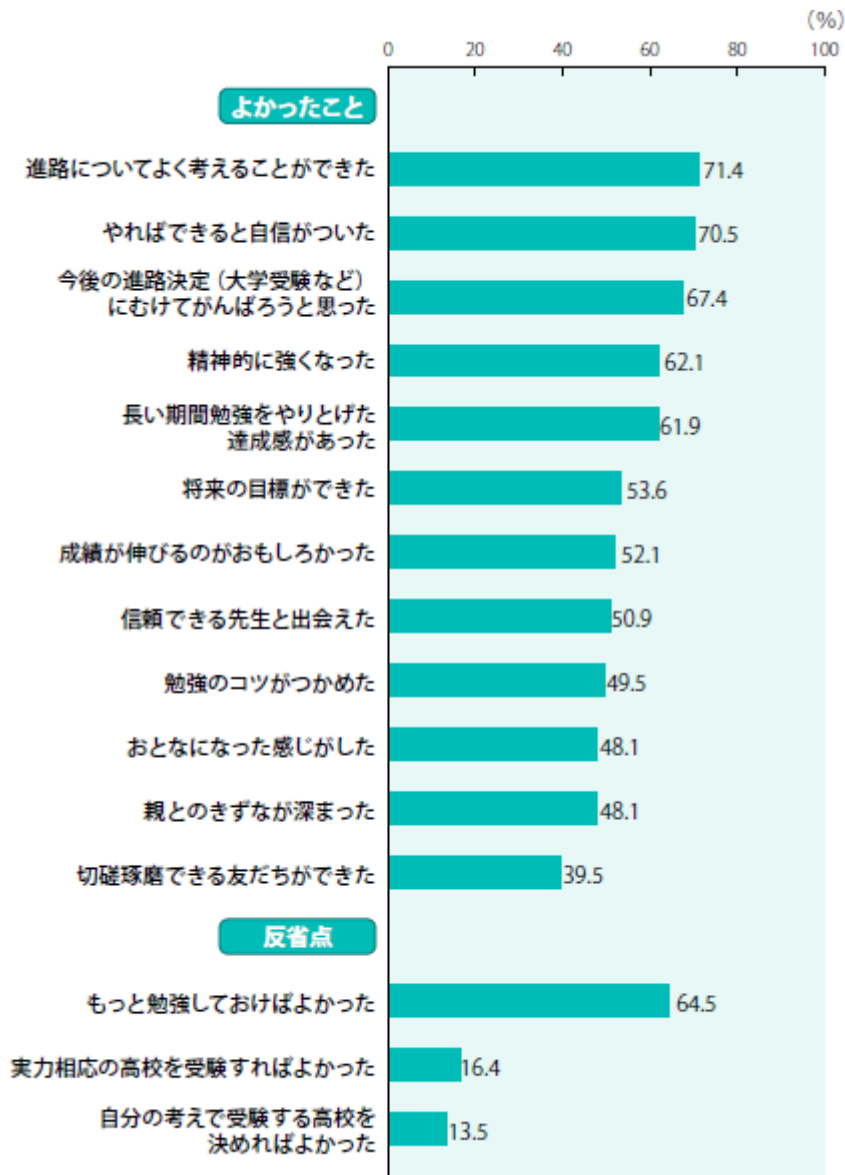
図 6) 志望校選びの情報源



注)「とても参考にした」+「まあ参考にした」の%。

⑤高校受験を振り返って、よかったこととして、「進路についてよく考えることができた」71.4%、「やればできると自信がついた」70.5%としている。一方で、高校受験の反省点としては、「もっと勉強しておけばよかった」と64.5%が回答している。

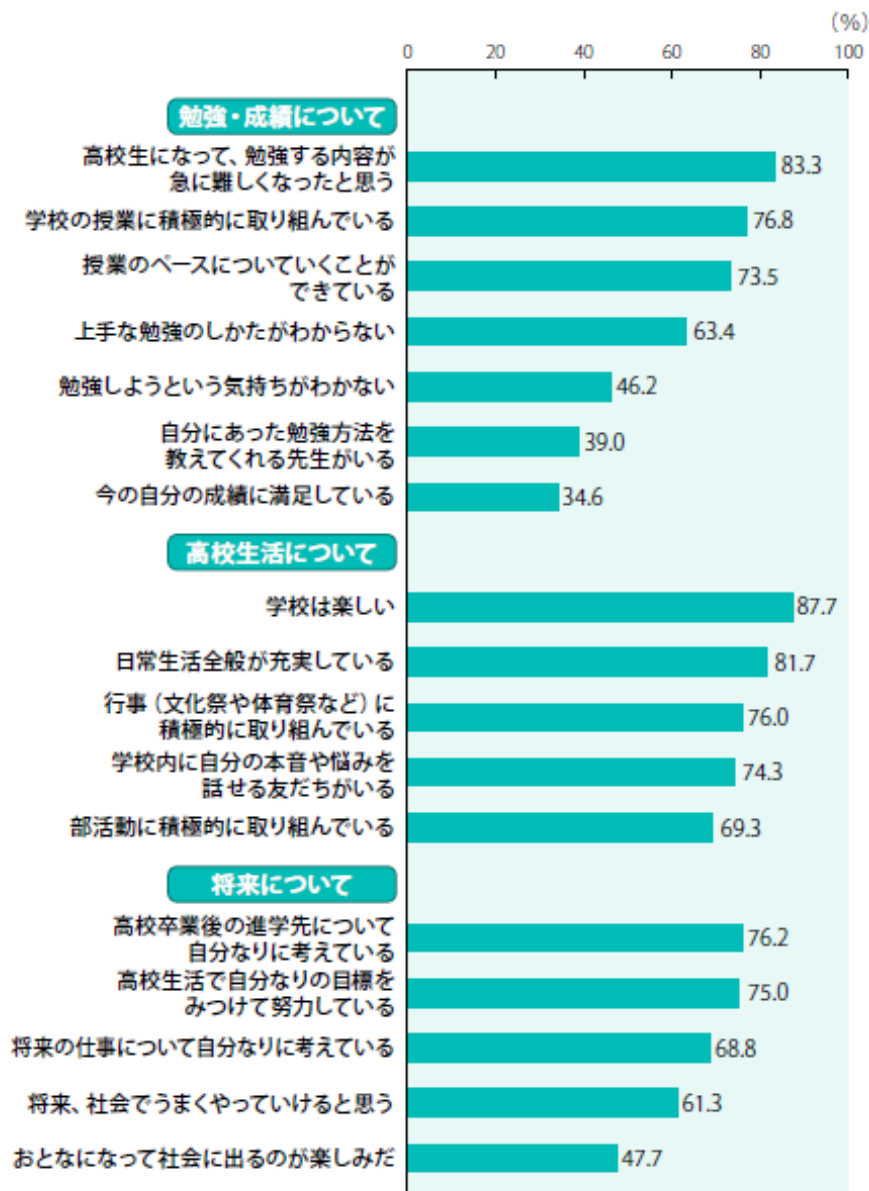
図7) 高校受験のよかったこと・反省点



注)「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

⑥ 現在の高校生活については、「学校は楽しい」87.7%、「日常生活全般が充実している」81.7%と前向きな生活を送る一方、「上手な勉強のしかたがわからない」63.4%、「勉強しようという気持ちがわからない」46.2%など、勉強面での課題が見られる。

図 8) 現在の高校生活



注)「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

●Benesse 教育研究開発センターの活動／Benesse 教育情報サイトでの情報提供について

- Benesse 教育研究開発センター (<http://benesse.jp/berd/>) では、今後も、時代の変化に即したテーマで調査や研究活動を行い、その結果を広く社会に開示することで、さまざまな方々との議論の輪を広げていきたいと考えています。
- Benesse 教育情報サイト (<http://benesse.jp/>) では、ベネッセが保有する教育関連のデータを公開しています。